

# 鳥取縣公報

昭和十七年九月一日  
第千三百六十四號

火曜日

本書ノ大キサハ國定規格A5判

## 目次

●鳥取縣稅增徵條例制定.....	一頁
○告示	
●砂糖配給統制規則第五條ノ規定ニ依ル指定.....	二頁
●負債整理委員會委員選任.....	二頁
●砂糖配給統制規則第十條ノ規定ニ依ル指定.....	二頁
○彙報	
●自給飼料に就て.....	三頁
●滿洲に理想境を作れ.....	四頁
●滿蒙開拓青少年義勇軍女子指導員募集.....	八頁
●傳染病患死者旬報.....	八頁

## 條令

### 鳥取縣條令第八號

鳥取縣稅增徵條例左ノ通定ム

昭和十七年九月一日

鳥取縣知事 土肥米之

#### 鳥取縣稅增徵條例

第一條 左ニ掲グル費用ニ充ツル爲鳥取縣稅賦課徵收條例第十條ニ規定スル賦課率ヲ超ヘ臨時增徵ス

一、事變費

第二條 臨時增徵スル賦課率ハ左ノ如シ

- 一、地租附加稅 本稅一圓ニ付金二十錢
  - 二、家屋稅附加稅 本稅一圓ニ付金二十錢
  - 三、營業稅附加稅 本稅一圓ニ付金二十錢
  - 四、段別稅 土地ノ評定賃賃價格一圓ニ付金四厘
- 附則

第三條 本條例ハ昭和十七年度分限り之ヲ適用ス

### 告示

#### 鳥取縣告示第五百七十六號

砂糖配給統制規則第五條ノ規定ニ依リ左ノ通指定ス

昭和十七年九月一日

鳥取縣知事

土肥米之

鳥取縣衛生課

珍味料製造業

佐々木多郎

鳥取縣醸造酢業組合員

市立鳥取病院分院

舞鶴海軍建築部美保宿舍

財團法人米子病院

海産物加工業

西原侃治

鳥取縣醫師會員

醫師

竹田賢夫

福島紡績株式會社倉吉工場

北浦保憲

鳥取縣水産試驗場

縣立倉吉農學校  
縣立倉吉高等女學校

郡是健康保險組合三朝溫泉保養所

瑞穂製紙有限會社

郡是製糸株式會社倉吉工場

日本赤十字社鳥取支部病院

#### 鳥取縣告示第五百七十七號

湖山村負債整理委員會委員ニ左ノ者ヲ選任セリ

昭和十七年九月一日

鳥取縣知事

土肥米之

川口直十郎

影井勝治

田中敬治

上山正美

山根梅太郎

田住藤十郎

村上恒治

船越太郎治

田中藤次郎

#### 鳥取縣告示第五百七十八號

砂糖配給統制規則第十條第一項ノ規定ニ依リ左ノ通指定ス

昭和十七年九月一日

鳥取縣知事

土肥米之

鳥取縣醸造酢業組合

01030

### 彙報

#### 自給飼料に就て

——乾草を増産せよ——

(農務課)

近時飼料の不圓滑に鑑みこれが自給の途を講ずることの必要が強調せられ、官民協力してこれが増産に努めてゐるのであるが、これについては一般農家の留意すべき點が多いので、左にその製造及び使用の上から重要な事柄について概要を記して參考とする

從來飼料といへば藪とか米糠等に限りといふやうな先入見が見受けられるが、このやうな觀念を固守してゐるやうでは自給飼料対策は到底實行さるべくもないので、特に指導の立場にある人はこの點につき廣い考へで研究されるものゝ特色を利用して自給自足の途を講ずることを方針とされたものである。

元來草類を始め綠肥や農産副生物、其の他山野の生産物の中に

は飼料として利用出来る物が極めて多く、粗飼料の給源はまだまだ餘餘が多分に存在するのであつて、良質の粗飼料を選んで濃厚飼料の節約を圖るといふことは洵に喫緊な要務である。

又、一般農家では稲藁を粗飼料として使用してゐる向が非常に多いのであるが、實は藁種類は飼料としての營養分は少量であつて穀類の代用にはならぬばかりでなく、蛋白質・磷酸・カルシウムビタミン等に缺乏してゐるので、これを多く給與すると家畜の營養を保つことが出来ないで骨軟症等營養障害の原因となるからもしやむを得ず藁を用ひるときは石灰藁にするとか、或は同時に多量の濃厚飼料を給與しなければならぬ等の弊害があるのである。

これに對して乾草特に禾本科の乾草は藁に較べておよそ二倍の蛋白質、三倍乃至四倍の磷酸・カルシウムを含み、これだけで家畜の生命を維持する力があり、假に從來一日二貫匁の稻藁と藪六升餘(約一貫匁)を與へてゐた場合、稻藁の半量一貫匁を乾草一貫匁で置き換へたとすると、藪は四升餘(約七百匁)で足り、毎月藪二升(約三百匁)の節約ができ、なほ節約した藪一貫匁は堆肥等に利用してその効用を増すことが出来る。

又、山野に自生する萩や葛、田畑に栽培する紫雲英や苜蓿、青刈大豆等及び殘葉を採取して日乾したものは藪と同じ營養分を含

01031

み、蛋白質を一五パーセント以上も含んでゐて、粟に較べると四倍以上の蛋白質を含んで居り、立派に穀の代用になる。金を出しても買へない貴重な穀の俵が山野に轉つてゐるわけである。

この外すべて豊科植物の乾草にはカルシウムやビタミンA・D等を豊富に含み、時局柄農家に大切な牛馬羊等の壽命を延ばし、泌乳量を増し、産毛量を増し、流産を防ぎ、且つ骨太の仔畜を擧げる等非常な効果があるのである。

しかし何んな乾草でも乾草でさへあれば良いとはいへぬのであつて、草の種類、刈取時期、調製方法等に依つて飼料としての價値は大變な差異を生じ、種類は苜蓿や禾本科のものがよく、刈取時期は少し早目にするを可とする。調製に當つては乾燥作業中や、貯藏中に雨や露に當てたり、黴を生じたりせぬやう心掛けねばならぬ。

尚、乾草以外の自給飼料を擧げると、山野草の外主なるものは青刈大豆・玉蜀黍・紫雲英等を始め甘藷蔓・殘葉・蠶沙・糞糞を始め各種エンシレージ、石灰糞、綠肥作物の一部飼料化、空閑地利用による牧草・飼料作物の栽培、厨芥、茶殻、海藻、樹實、樹葉等の利用が考へられる。俗に「天高く馬肥ゆる」といふが「多は牛馬の瘠せる季節」であることに案外気がつかぬ向がある。若し粟に粟を用ひる代りに乾草を充分貯へて與へるならば、その榮

養を保持して畜産増産上貢獻する處が甚だ多いのである。

### 滿洲開拓地の耕耘法

#### 氣候的土質的豊穰性

——決然起つて理想境を作れ——

(社會課)

北滿開拓について大分書いたが、實際滿洲進出は東亞共榮圈建設の基幹をなすものであつて、南方の開墾と共に今後日本人の是非積極的に進出發展せねばならぬ重要問題である。殊に滿洲開拓は我が國内地農民の耕地不足問題と關聯して滿洲の健全な發達を促すと共に、内地農村を救済して將來を明るくする一石二鳥の方策であつて、農村民は是非舊來の守株的情弊を打破して、廣漠たる滿洲の野に活躍する覺悟を固めねばならぬのである。即ち、數回に亘り滿洲開拓問題について記し、各位の心からなる發奮進出を期待する次第である。

今回は渡滿した開拓民の農耕法の實際を記して、直接指導の任に當られる各位の参考に資し、併せて農民諸氏の奮發を促したいと思ふ。

01032

北滿の農耕はすべて春期に開始されるのであつて、冬は寒さの爲に草本作物は一切出来ない。

四月になつて急に温度が上昇し、草原を一面に福壽草が黄金色に染める頃になるとぼつ／＼大麥・小麥・燕麥・ビート等の播種が始まり、五月になつてオキナグサやサクラソウの花が咲き始めると馬鈴薯・大豆・小豆・綠豆・菜豆・包米・高粱・イチビ(商麻・桐麻、青麻ともいふ)・ルーサン・胡麻・向日葵等の播種が始まる。水稻も大抵五月一ぱい、遅くとも六月上旬までには播種する。

種子を蒔くには犁丈又は壞把といふ農具を使ふのであつて、大豆の如き大粒のものは犁丈で播溝をつくつて播種し且つ覆土を行ひ、蒔いた後は木製ローラーを馬に牽かせて鎮壓して行く、高粱粟等の種子を蒔く場合は壞把を二頭乃至四頭の馬が牽いて浅い播溝をつくり、種子を蒔いて行き、その後を拉子といふ簡單な農具で人が覆土して行く、そして木製ローラーで鎮壓して行くのである。

滿洲の蒔種の特徴は耕起・畦立・溝切・種蒔・覆土・鎮壓等が一聯の作業として相前後して行はれて行くことであつて、これは種蒔の際土壌の表面の水分をなるべく發散させないで、早く種子に水分を吸収させて發芽させる爲であつて、發芽して少し下の方に根

を下し、入れば、地下の凍結面が地熱で融けて徐々に水分を供給するから占めたものである。開拓地の冬の凍結は土壌の風化作用を促進して地力を恢復せしめ、耕耘を容易ならしめ、その上右のやうな良い結果を齎するのである。

種蒔が終り種子が發芽すると中耕・除草・間引等の管理を行ふのであるが、開拓民は大抵カルチヅエーターで中耕除草を行ひ、鋤頭で採際の中耕と間引を行ふ。

一、二回の中耕が終ると作物は恵まれた高温と恵まれた日照に馬鈴薯・燕麥・イチビ・大麻・甘藍・南瓜・生食用玉蜀黍・小麥等を收穫し、九月上旬に黍・粟・在・稗等を收穫し、九月中旬乃至十月上旬に大豆・菜豆・高粱・玉蜀黍・陸稻・蕎麥等を收穫し、十月下旬に水稻を收穫する。收穫は全部鎌で刈取り、麥類は直徑七寸位の束にして束立して乾燥するのである。

充分乾燥したものはこれを屋敷の廣場に撒水して地面を凍結せしめた脱穀場に運搬して擡げ、その上を馬に石製のローラーを牽かせて何回となく廻つて脱穀し、充分脱穀したら粟稈葉を木製のスコップで空中高く糊ひ上げて夾雜物を飛散除去して種實を精選する。そしてこれを俵や袋に入れて貯藏するのである。反當收

01033

量はおよそ米一石五斗乃至二石で粟百貫、燕麥三石粟四十貫、小麥一石、大麥一石五斗、小豆八斗、蕎麥一石五斗、大麻五十貫、亞麻六十貫、イチビ五十貫、ビート七百貫、煙草四十貫、ルーサーン四百貫、胡麻九斗、向日葵一石内外であるが、この收量は今後土地改良・施肥・輪作栽培等の改良によつて二倍位に増加することは困難でないといはれてゐる。

このやうに滿洲の農作物は農耕法の粗放さに拘らず、相當豐穰性を持つてゐるのであるが、これは滿洲殊に北滿は土地が肥沃であつて、各地とも無肥料でも收穫が可能である爲でもあるけれども、しかし土地の外に氣候による豐穰性といふことを第一に推さなければならぬ。土地だけの豊沃によるものであるなら遅かれ早かれやがて土壤の瘠薄化といふことはまぬかれぬことであるがこれに氣候の豐穰性が加はることによつて、農家の研究努力を助けて悠久なる豐穰性を持續することが出来るのである。

氣候の豐穰性の第一は農耕開始期以後に於ける氣温の急速なる昇騰といふことである。開拓地は冬期一・二月及び三月中旬頃までの温度は非常に寒いのであるが、三月下旬から四月になると急に温度が昇騰して、五月になれば東北地方の温度を追ひ抜いて百花の春の氣候となる。

氣候の豐穰性の第二は農耕開始期以後は我が國內地以上の氣温となるにも拘らず、北滿は南滿のやうに無闇に暑くなくて冷涼味を暑さの中に有してゐること、これが爲馬鈴薯・甜菜・亞麻・小麥等の冷涼に適する作物が非常によく育ち、又馬鈴薯なら疫病、小麥なら銹病といったやうな病害にかゝらないで南滿より非常に豐穰となる。

第三は日照である。農作は如何に温度が高くて日照が不足では生育がよくないのであるが、滿洲開拓地では七月八月に我が國のやうな降り込みがなく、日照が長いため開拓地の氣候の豐穰性を甚しく大ならしめる。

しかし滿洲開拓地と雖も豐穰性を損ふ氣象的要因が全くないといふわけではなく、十年に一度位の豪雨による畑地の浸水、早期の降霜、夏季に稀に來る雹害、旱害等がある。但し旱害については開拓地は連日天氣が續いて非常に乾燥する氣候であるが、作物が割合旱害に罹らないのは一つは栽培するものが旱魃に抵抗性の強い作物であること、今一つは作物が発芽して一度根を下しさえすれば、地下の凍結面が暑熱の爲に溶解して常に地表に水分を送る爲であつて、いづれにしてもこれらの不良要因も我が國の暴風や洪水、雹害、雪害等に比較すれば問題にならぬほどの小なるもの

01034

といはねばならぬ。

滿洲開拓地の豐穰性は右の氣候的要因が第一であるが、土壤の豐穰性といふことも第二の條件となつてゐる。

滿洲を旅行する人は新京以南の南部滿洲の土はその色が白色であり、新京からハルビンに至る沿線の耕土が薄墨色となり、ハルビン以北になると黒色になることを見るのであるが、土色ばかりで土地の肥瘠をきめることは出来ぬけれども、この滿洲の耕土の色との相違は大体耕土の肥沃度を示してゐるといつて差支へない。

南滿洲の耕土が北滿に較べて白いはは滿人の連年にわたる掠奪農業の結果であつて、我が國の農民であれば稻を作れば裏作には紫雲英を作つて地力の恢復を圖るとか、粟の幾割かを肥料として還へすとか、草を入れるとかするのであるが、滿人は從來高粱や粟を作つても穀質はもとより莖葉まで畑地から運び出して屋根や壁の材料や燃料とし、或は根株まで掘起して燃料とするので有機質が少しも還元しないのだから、瘠地となるのも無理はないのである。

寫眞などで滿洲開拓地の廣漠たる耕地をトラクターが勇ましく疾走してゐるさまを見ると、開拓地の農業經營は一見資本家的大

經營のやうであるが、實は理想的な家族經營なであつて、一家が十町歩の耕地を持ち、自家勢力を基調とする經營を行つてゐるのである。尙將來はこの耕地の外に共同放牧地・共同採草地・共同林地等、分割すれば一人當り約十町歩の廣さの共同地が設置されることになつてゐる。

家族勢力が追々充實して十町歩の耕地が立派に經營され、それと併行して各部落をこれらの共同地が取圍んだ曉には、そこには土地を兼併する大地主もなく、年貢を納める小作人の階級もなく全村皆一家を擧げて勞働し、實りの秋を讀める自作農ばかりの理想境が完成するわけである。

内地の狹隘な耕地、いくら開墾しても見透しのついでゐる知れた面積しかない土地で、一戸當り一町歩内外の得難い農村に多數の農民があくせくとして共倒れの農業經營に苦しむより、斷然思ひ切つて新しい天地に望み多い經營を行ふことが如何に勇ましい仕事であるか。そしてこれが大東亞建設の大國策に協力し、同時に行きつまつた郷土を救ふ唯一の道であることを思ふとき、滿洲開拓民の前途の有望さと、その尊さを泌々感しさせられるのである。

